

The Y's Men's Club of Sendai

仙台ワイズメンズクラブ2016年4月報

- 国際会長主題 「信念あるミッション」
- アジア地区会長 「愛をもって奉仕をしよう」
- 東日本区理事主題 「原点に立って、未来へステップ」
- 北東部長主題 「今と原点を融合して未来へ」
- クラブ会長主題 「自分を見つめて 未来へ向かって」

| | |
|-------|-----------|
| 会 長 | 永 井 孝 憲 |
| 副会長 | 永 田 孝 治 |
| 書 記 | 横 倉 純 恵 子 |
| 会 計 | 吉 田 一 成 雄 |
| ネット会長 | 田 村 成 雄 |
| 担当主事 | 加 藤 孝 治 |

仙台クラブ事務所 : 〒980-0822 仙台市青葉区立町9-7 仙台YMCA内
 仙台クラブFacebook : <https://www.facebook.com/sendaiys>

<今月の聖句>

「だから、言うておく。自分の命ことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思
 い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も撒かず、
 刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。」
 マタイによる福音書 第6章25節～26節

会長挨拶

会長 永井 孝憲

春爛漫の今日この頃、皆さんにはお変わりなくお過ごしと存じますが、まだ寒暖の差もあります、どうぞ体調崩さ
 れませんようご留意下さいますように。

過日は「石巻広域ワイズメンズクラブ」の設立総会が持たれ、滞りなく終了した旨ご報告があり、チャーターナイト
 は5月28日(土)になります、皆さんで祝福をいたしたく存じます。

3月例会報告

日 時：2016年3月15日(火) 19:00～21:00

会 場：仙台YMCA会議室

出席者：阿部・今澤・小幡・加藤・工藤・佐々木・高松・高松メネ・田村メ
 ネ・中川・永井・横倉・吉田

ゲスト・奈良隆寛さん(スピーカー) 松本京子さん、他4名

内 容：

司会は中川メン。出席予定だった永井会長が仕事の都合で時間に間に合わず、代理で横倉書記の点鐘で開会、今月の聖句、ワイズソング、ワイズの信条と続き、会長挨拶も急遽横倉書記が担い、卓話者をはじめゲスト出席の皆さんに感謝が述べられた。佐々木ウィメンの食前感謝を受け、夕食のお弁当をいただく。



メインのスピーチは宮城県立こども

病院発達診療科長の奈良隆寛DR、そのお話を是非聞きたいと、Yのスタッフ4名が飛び込み傍聴となる。

奈良DRは自分自身が脳性麻痺というハンディを持つため、慈恵医大を卒業後、こどもの発達を支援するという道に入った。埼玉県立小児科医療センター、北九州市立総合療育センターを経て、03年から宮城で働き12年になる。もともとはオーケストラのコントラバス奏者だったが、96年に国際協力でネパールに就いたときインドの弦楽器サーランギにめぐりあい、38弦の共鳴する響きに魅せられ、インド音楽家に転向した。アフター5には入院中のこどもたちの部屋へ出前コンサートに通っている。

演題は「ハンディをもつ親子の支え方」最初にネパールのことに触れられ、平均寿命は男62才、女60才だが、なぜ女の方が短いか?とQ・答えは男は働かないから、と。脳性麻痺のこどもリハビリで大事なものは、運動よりも向学心とレジリエンス(困ったときに抵抗する力、負けじ魂)新し

4月例会について

日 時：4月19日(火)
18:30-20:30

会 場：仙台YMCA
3階・実習室

会 費：2,000円
(メン、メネット共)

司 会：田中京子

食前感謝：工藤悦子

尚、缶ビール、ソフトドリンクは準備しますが、他のお酒類は飲まれる方ご持参願います。

3月例会報告

| | |
|-----------|---------|
| 在籍者 | 19名 |
| 出席者 | 11名 |
| メイキャップ | 1名 |
| ゲスト・ビジター | 8名 |
| メネット・コメント | 2名 |
| 出席率 | 63.2% |
| ニコニコ | 15,000円 |

The Y's Men's Club of Sendai

いものにキラキラする目が大切、興味を持つ。レジリエンスを育むには、プレゼンス（父母がそばにいる）リスペクト（期待に応じる、裏切らない）トラスト（誠実さ）により質の高いつながりを持つこと。

自閉症の特徴は、大きな（あきらかな）違いより、小さな違いを好む。アンパンマンよりトーマスに興味を示す。偉大な発明や発見をしたのは自閉症だったアインシュタインやファール等々。自閉症は治そうとは思わず、問題解決型（正常化）でなく、目標志向型（最適化）をめざす。

ADHD（集中困難）は、じっくり取り組むのが苦手、切り替えが早い、単調な話を聞くのは嫌になる・・・だが、一緒に悩み、寄り添うことが大事。よいことはその場でほめる、その時に反省を引き出すには「あなたはちょっとだけいけなかったことはある？」「ほんの少し、こうしたらよかったと思う所ない？」と。短所は長所でもある。

障害児だった奈良DRからのお願い、ちょっと変でも障害児扱いはやめて！、暖かいまなざしの中で僕は発達していきます、天からさずかった特殊な能力を発掘してほしい、気付いてない親に「こんなこともできるよ」って教えてあげてほしい、です。

最後に数曲サーランギの演奏をきかせて頂きましたが、時間があればもっと聞きたく思いました。

連絡報告では、東日本区大会への登録について、台湾国際大会について、及び被災地訪問で来仙する西宮クラブメネットの皆さんとの懇親会について周知がなされた。

誕生祝い、ニコニコと続き、今澤監事の閉会挨拶、永井会長の閉会点鐘で閉じられた。



2015-2016年度 次期クラブ会長・次期部役員研修会

吉田 一恵

2016年3月5日（土）～6日（日）日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘で開催されました。参加者総数は105名で、次期クラブ会長は39名、次期部役員は29名でした。

次期クラブ会長は60クラブ中女性が10名と知り、女性会員が増えている証だろうと思いました。12：00から受付が始まり、13：00から予定通り 渡辺隆東日本区理事の閉会点鐘で研修会が始まりました。東日本区の現状は年度初め902名でスタートしましたが、直近（2016年1月1日）920名と18名の増との報告がありました。又、（仮称）石巻広域クラブ設立総会（4/2）同 チャーターナイト（5/28）、（仮称）多磨センタークラブ設立総会（5/22予定）と、世界においては新しい地域モンゴリアの誕生の嬉しい報告もありました。東日本大震災から早5年目、被災地訪問等復興支援に多くのワイズの活動の継続の報告もありました。田尻忠邦東日本区連絡主事からはYMCA理解と支援報告と言うことで、ユースエンパワメント（青少年を元気づける）、ユースがYMCA運動の担い手の中心となるよう、ユースのリーダーシップの養成に力を入れていると報告がありました。YMCAとY'Sとの協力に関しては、地域における課題に取り組み、東日本区と日本YMCA同盟が情報を共有し、それぞれの賜物を提供し活動を展開することである。利根川恵子次期東日本区理事の理事方針「明日に向かって、今日動こう」、現在の東日本区は、会員数減少、高齢化、財政逼迫等、厳しい問題に直面している。「明日」でもあり「将来」を見据えて、「今日」つまり「今」できること、しなければならぬことを、とにかく「動いて」実行しよう。とのメッセージでした。山田公平元APAY（アジア太平洋地域YMCA同盟）総主事の基調講演は「これからのワイズ、YMCAにとってのワイズ」でした。欧米先進国のワイズの衰退の原因は、自分のアイデンティティーと言う時代から徐々に変化し、グループを作らなくともやりたいことができる。何かしたい人達はそれが出来るところに行く、そんな仲間と会う。ワイズもそこを乗り越えるには、このクラブに入って自分はこういうことをやってみたいと何かしたい人に希望を持って来て貰える様なクラブにすることである。また、YMCA総主事、理事のワイズ理解に偏り、今後の協働をどう進めるか、協働で行うプロジェクトを計画等両団体のリーダー間で話し合うことであるとYMCAとワイズ両方に席を置いた経験からの適切なお話でした。次は7部5グループに分かれて、区の5事業の方針をローテーションで聞いた。地域奉仕事業方針並びに会員増強事業方針は次期理事方針に基ずくコメントで、 国際情勢や地域社会に大きな変化をもたらしている現状の中、この変化に耐えるためには、軽量化した車体に強固なエンジンを載せ替えていく必要がある。「エンジン」とはもちろんメンバー数のことである。YMCAとワイズの関係は常に同じ方向に向かって進む車の両輪です。この関係をより良いものにするためにも一定のメンバー数を維持していることで、ワイズの存在意義を明示する証でもある。メネット活動については、メネットも会員減少、高齢化などの問題は避けられず、委員会運営に、深く影響をおよぼしている。女性メンバーの在席の無いクラブに女性が入会するなど、女性のメンバーは確実に増加している。“女子部”としてどなたでも参加いただけるようにメネット事業を広くお知らせします。

The Y's Men's Club of Sendai

夕食懇談会でもテーブルごとに基調講演を受講してのグループ討議が行われ、全テーブルごとの発表がありました。その後長岡正彦次期北東部長を囲んで7名での懇談、夕食懇談会の後だったこと、又気の合うメンバーだけに和気あいの懇談でした。

2日目早朝ウォーク時は見ることが出来なかった富士山、朝食後に一瞬日が射し、雄大な富士山を見ることが出来、今日の活力になりました。聖日礼拝後、2日目の研修、国際・アジアエリアの現状、部事業主



査の役割、部書記・会計の役割・事務手続きのポイントについてはテキストに基づき説明がありました。その中でクラブリテンはクラブ内の「機関合紙」で「公式記録」である。クラブ内外への「広報誌」入会希望者への「入会案内ツール」でもある。発行を継続する意味の大切さを感じました。

会計について、2016-2017の区運営を3S Simple Slim Speed を促進、Speedを重視し、送金等の締切日を厳守でのお願いがありました。私は次期クラブ会長グループの分科会に出席しました。39名の次期会長全員がそれぞれのクラブの状況等の発表がありました。ほとんどのクラブで会員減少、高齢化を抱えている事で奉仕活動に多少の影響がある。今年度から区の経費縮小に伴い、部の活性化を含め、区の業務の一部を部に移行して見えて来たこと、特に部内の各クラブの状況を知る事で自分のクラブ運営に繋がれたらと思ったことである。また、5万円の年会費は高い、どこかで下げるに一つはロスターは毎年全員分印刷する必要があるのかの問いに関しては区の委員会これから検討をしていきたいとコメントがありました。国際役員投票の有無を提出の書類が10月～11月に各クラブ会長あて発送される。これに関して国際役員となると器が大きく、添付される詳細のみで判断が難しいので、区からの推薦の言葉も添えて関係書類の発送をお願いした。IT利用による情報伝達については、東日本区では区内の円滑、迅速、コストのかからないコミュニケーションを可能にするため、メーリングリストを提供し、活用しています。クラブ書記のアドレス追加いたします。ウイルス確認を願う。連絡事項ではメネットの献金は今年度は例年どおり区へ送金、次年度からは部へ送金。お年玉切手（現金化を含め）は今年度は区へ送って欲しい。最後にアンケート回収伝達/ワイズクイズの回答配布がありました。最後に今期も次期も「部の活性化」をテーマとしている中で次期部役員の出席率が低いとの監事報告がありました。それから、研修期間中「東山荘100年募金」として“オリジナル缶バッチ”の販売がありました。売上金45,860円の報告、東日本大震災復興支援への献金（46,601円）贈呈、閉会点鐘をもって予定通り研修は終了いたしました。

3月第2例会の主な報告

〈4/5(火) 出席：佐々木・永井・横倉・吉田〉

- ① 4月例会は花見例会として開催し、上記の通り決定した。
- ② 大震災復興支援3クラブ実行委員会関連
4月2日（土）石巻グランドホテルにて「石巻広域ワイズメンズクラブ」の設立総会が持たれ、滞りなく終了した旨報告がなされた。チャーターナイトは5月28日（土）14：00～、同じく石巻グランドホテルにて開催されます。ご都合つく皆さんは是非ご出席頂き祝福されて下さい。
- ③ 第3回北東部評議会が4/23（土）盛岡の「いわて県民情報交流センター "アイーナ、"」で開催されます。資料等の準備作業を行います、部三役で別途調整します。
- ④ 3月東日本区ニュース（理事通信）の内容を確認する。6/4（土）6/5（日）の両日に開催されます第17回東日本区大会への登録締切が4/15（金）までとなります。今回、申し込みは各自にてお願いすることとします。尚、不明の点がございましたら会長又は書記まで問い合わせ下さい。
- ⑤ 5月例会のゲストスピーカー、心当たりの方おられましたらご推薦をお願いします。



The Y's Men's Club of Sendai

卒寿男の随想

2016.3.23 岡 久雄

最近になって、食事の後、テレビを見ていると、何時の間にかぐっすり眠ってしまい、その中「あれ、今何時かな、何をしていたのかな」と一瞬吃驚して目覚めるが、直ぐ「なんだ、さっきご飯を食べ終わって、テレビを見ていたんだな」と気づき、思わず苦笑する事が屢である。その間、僅か5分か、せいぜい15分の事。

こんな兆候があれば、認知症が始まったのでは、と疑うのが普通だが、私の場合は、決してそのような疑いや不安を持ったことが無い。もう90歳を超えたのであるから、こんな事も当然で、寧ろ望ましい兆候ではないかとさえ思っている。

私の祖母、岡こうの母、末吉ソヨは、89歳で天に召されたが、その日、所属していた尼崎教会の日曜礼拝に出席し、一旦帰宅して食事を済ませてから、その日礼拝を欠席された方の見舞いに行く積りで、「少し眠いから、暫く休んでから出かけるわ」と、着物のまま床に就いていた。

「もうそろそろ出かける時間だね」と、家人がソヨお婆さんを起こしに行き驚いた。何時の間にかソヨお婆さんは、床の中で安らかに亡くなっていたのだ。

この事は、昭和6年2月5日号の「基督教世界」に、「最後の一日まで、神に！（末吉ソヨ老姉の事ども）岸田生、」と言う記事の中に掲載されている

2001年5月、私は姉と妹とを伴って、岡家のルーツを訪ね、祖父と祖母の故郷である島根県と鳥取県とを巡り訪ねた折、戦災に遭わなかった鳥取教会で、当時の油井哲夫牧師と会い、古い教会記録を見せて頂いた。何とそこに、明治時代に行われた祖父、祖母の受洗、更にこの二人の結婚式の記録までがキチンと保管されており、これらを私たちの目でしっかりと見る事が出来、感動した。

私も、もうソヨお婆さんと同じ年頃になって、出来ればあのように、安らかに天に召されたいと願うこの頃である。

時々、医者のお世話になりながらも、90歳の大台を超え、なおそれなりの健康が与えられている私は、今、年齢相応に体を動かし、感謝しながら、一日一日を大切に過ごしている。

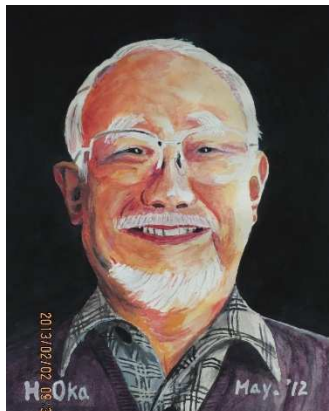
高齢になってからは、何時も早朝4時頃に目が覚める。そこで、手を伸ばしてベッドの傍にしているラジオのスイッチを入れ、静かにラジオ放送を聞く。その頃は「明日への言葉」などと言う番組で、心に残る良い話を聞く事が多い。

最近、妻も高齢で、やや体力の衰えが見え始めたので、私は出来るだけ自分の事は自分でするばかりか、寧ろ、妻の領分に立ち入った家事も進んで手伝うことにしている。

朝夕の食事の準備や片付けなども手伝っているが、これは、妻の為と言うより、寧ろ自分の体を動かす為に行っているのが本音である。

その中、もう、人生に於いて残る為すべき事が一切無くなれば、体を動かす事も、頭を使う事も、要求しなくなり、自然に体力、気力が衰え、それに従って食欲も失せ、そのまま眠りに入って行くのであろう。私が、そうなった時には、そのまま安らかに眠らせ置いて欲しい。これが、医学的に言う本当の自然死ではあるまいか。

自然死が、私の理想とする人生の最後であり、その事を神様にお願いし、家族にもしかと伝え置いている。果たして最後にどうなるかは、一切神の手の中にあるので、私たち人間は、全く知りようがない。



4年前の自画像